



「子供同士のつながりを成長に」

例年より長い2学期も3分の1を過ぎ、今年度1年の折り返し地点です。新型コロナウイルスの影響で、全国的に学校行事の時間が縮小されており、本校も同様に、運動会や音楽会等の行事を変更、縮小して取り組んでいます。いつもご来校いただいているご来賓、地域の皆様方には、ご来校をお断りしており、大変申し訳ございません。保護者の皆様に置かれましても、ご来校を最小限に留めていただき感謝しております。



そんな中ですが、本校独特の自然体験等の活動は、なるべくいつも通りに行えるようにと考えています。それらの行事は天候に左右される為、ハラハラドキドキしながら当日を待つ日々です。同様にご心配をおかけしていることと存じますが、子供たちの為にどうぞよろしくお願い致します。

全校キャンプでは、こんな場面を見かけました。全校キャンプで活動する班は、「山の子班」という、1年生から6年生までで一つの班を編成する「縦割り（異学年）」の活動班です。

いつもなら年度初めから活動に取り組み、全校キャンプの前には子供同士の関係がある程度できているのですが、今年度はキャンプ当日の直前まで活動ができませんでした。

最初の班の顔合わせの時、どうなることかと心配しましたが、そこは何年もやってきた六甲山小の子供たち。もちろん教職員の手助けもありましたが、スムーズに活動を進めることができていました。特に高学年の、下の学年の子供たちに優しく接する姿や、様々な場面でリーダーシップを発揮している姿に感心しました。班ごとに遊んでいた子供たちの笑顔や、運動場に響いた楽しい笑い声が印象に残っています。

全校キャンプ当日は、残暑の厳しい晴天でした。私は学校でお留守番。終わり際に出張に出る校長先生と入れ替わりで自然の家に行きました。「暑い一日を過ごした子供たちは大丈夫かな？」と思いながら林道を下っていくと、ある班が現地スタッフさんの話を聞いていました。驚いたことに、暑い中にも関わらず、どの学年の子供もが、そのスタッフさんの方をしっかりと見て聞いていたのです。その横をそっと通り抜けて下っていくと、アーチェリーやカヌーをする子供たちを見つけました。確かに暑くて少々ぐったりしている人もいましたが、顔合わせの時同様、ここでも笑顔で活動を楽しむ姿がたくさん見られました。感心したのは、片づけの時テキパキと働く高学年の子供たち、その姿を見て働く下の学年の子供たちの姿勢でした。他校でも同様の異学年活動はありましたが、このように活動が定着している学校は珍しいのではないのでしょうか？本校は、全校児童数が少ない分、子供同士がより深く関わりあうことができます。この活動で、つながりを大切に育ててほしいと感じました。

9月末の「六甲山オリンピック」は、「2学年」ごとのグループでの取り組みです。子供たちは過密スケジュールで練習時間の余裕がない中、日々の体育の授業に真摯に取り組み、進んで学びを自分のものにしようと頑張りました。延期にもめげず、「チーム」ごとでも協力し合い、前向きに取り組めた六甲山小の子供たちの姿がとても誇らしかったです。応援ありがとうございました。

残り半年も、「縦割り」「2学年」「学級」「チーム」…と、活動グループの形は違えども、互いを認め合い、高め合える仲間づくりを進め、一人一人の学びや育ちをつかみ取ってほしいです。

教頭 中村 信介